

区 分	有識者意見
ケアラーの支援を進めていくための視点	<p><道条例の制定></p> <ul style="list-style-type: none"> ○目指すべき方向性として、まずは条例の制定を考えるべき。 ○家族介護者への支援は多くの自治体が行っているが、条例がなければ安定的な施策が実施できず、予算の確保も難しい。ケアラー支援の必要性を広く住民や事業者に知ってもらわなければ、介護離職も防げない。そこで、道としても条例を制定の上、できれば予算を確保していただいて、各市町村の取組に対して補助金や交付金を出してもらえれば取組が進むのではないか。 ○（各委員から意見のあった）条例化については、ケアラー支援を計画的に進めていく上で必要と考える。道としての理念や考え方を整理の上、それを条例に位置付けてもらいたい。
ケアラーの状況や支援に対する理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○普及啓発活動は非常に重要であり、支援の必要性や相談先など、<u>多くの住民に「見える」「わかる」形で知ってもらうべき。</u> ○ケアラーが求めている支援の最たるものは「相談先」となっている。やはり当事者は、どこに相談すれば良いかわからない場合が多いのだと思う。このため、自治体側としては、<u>相談窓口の十分な周知をしなければならない。</u> ○地方に行けば行くほど、<u>家族が介護するのが当たり前という意識あると思うので、認識を見直してもらうためにも研修が必要。</u> ○回答があったケアラーのうち約2割が「非正規」の雇用形態であることから、介護離職を防ぐための支援が必要 ○<u>ケアラー支援の必要性を広く住民や事業者に知ってもらわなければ、介護離職も防げない。</u>
早期発見・相談支援体制の整備	<p><早期発見></p> <ul style="list-style-type: none"> ○回答があったケアラーのうち5割が高齢者、ケアを必要とする者のうち8割超が75歳以上となっている結果を鑑みて、ここ（老老介護）への支援の視点を欠かさないこと。 ○今般の調査対象は包括が選定した「支援につながっているケース」であるが、<u>反対に潜在的なケースも数多くあることを念頭に置き、今後の施策を検討すること。</u> ○ケアラーにとっては、<u>身近な相談窓口（の存在や対応）が一番大事である。</u> ○道内ではSSWは派遣型が多く、<u>学校がヤングケアラーに気がつかなければSSWに繋がらないため、先生方に理解をしていただくための取組を通じて、SSW事業の活用を促進していくことが必要。</u> ○調査結果の見方として子どもの認識と先生の認識にはズレがあると考えべきで、それを前提に対応を考えることが必要。 ○学校での発見が重要だが、教員の認識が不十分だと支援に繋がらない。ヤングケアラーの定義や問題性などについて、<u>学校の認識をさらに深めることが必要。</u> ○派遣型のSSWではヤングケアラーであることのみでは派遣依頼がされにくく、様々な問題で派遣されて初めて、実は対応した子どもがヤングケアラーであったという形で関与することが多いと思われるが、巡回型や学校担当型の方が学校の先生とコミュニケーションをとりやすく、子どもの状況を把握しやすいのではないかと。また、<u>先生のみではなく学校の様々なスタッフとSSWの役割を位置づけ直す</u>といったことも対応として考えられるのではないかと。 ○国が認知度向上に向けた集中取組期間としたこの3年間に、SSWに係る人材の予算の確保を位置づけられないか。

<p>早期発見・相談支援体制の整備</p>	<p><支援資源への繋ぎと活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケアラーが働いている場合は緊急時の対応などは非常に難しいことから、支援の必要性があるのではないか。 ○今回アンケートに回答した「支援につながっているケース」ですら、緊急時のケア代替者が「誰もいない」と回答している者が2割も存在するという事実は重い。 ○複数人のケアを担っているケアラーが（同居・別居いずれの例でも）1/4に達することは、大きな発見であったといえる。 ○昨今のコロナ禍においては、思うように介護サービスを活用できず、家族介護者の負担が大きくなっていることから、この軽減が求められている。こうした社会情勢を意識した施策の検討が必要。 ○「支援につながっているケース」であっても苦勞を抱えているケースがあるということは、支援資源（の活用方法など）に課題があるのではないか。この考えのもと、「具体支援の充実」を今後の施策の方向性に加えてもらいたい。 ○「ケアラー本人と要ケア者への支援はセットで行う」という視点が重要。（特にヤングケアラー支援にあっては）既存の家族支援を活用し機能させることが施策の本丸である。条例化は良いと思うが、この「家族支援」について言及し、家族支援という枠組みで進めていく必要がある。 ○子どもがケアをしている対象が、大人かきょうだいかで、必要な支援は異なるのではないか。 ○ヤングケアラーからの相談の中で、生活に困っているといった状況があった場合、一定程度経済的な補填ができれば望ましい。
<p>ケアラー支援のための地域づくり</p>	<p><地域づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○早期発見のためには周知や普及啓発は当然必要だと思うが、<u>気づいた人、発見した周りの人が関係機関や相談窓口に繋がれる地域づくりが必要。</u> ○<u>実際に介護を行う立場にならなければわからないことが多い</u>ことから、学校で介護を学ぶ機会を通じて、子どもたちの理解を促すことができるのではないか。